
また会う日まで

るここ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

また会う日まで

【コード】

N8360P

【作者名】

ろじじ

【あらすじ】

アニメポケモン金銀編。サトシとリザードンの別れの話。

リザードンと別れた俺たちは次の小さな町を目指し、ひたすらに歩き続けた。朝、リザフィックバレーを出たといっても次の町までに着くのはタケシ曰く夕方らしい。

リザードンとの別れは悲しかった。

でも、これはリザードンの為でもあるし、俺の為でもあるから。

確かに最初はリザードンを手放すなんて考えられなかった。

リザードンとの思い出が俺の脳内に溢れ出てくる。

心ないポケモントレーナーに捨てられたヒトカゲ。それを俺たち三人が嵐の中助けに行つて、ジョーイさんが命を救い、そのあと俺の手持ちになった。

リザード、リザードンに進化したら俺がまだ未熟だったから一気に言うことを聞かなくなって、可愛いヒトカゲ時代を思うと、当時との違いに泣きたくなつた。

最初のポケモンリーグのときもそうだった。

ヒロシと満足に試合できなかった。

あのときは悔しくてたまらなかつたけど、今から思い返すと自分のポケモンからの信頼すらない奴がフルバトルへ勝ち進めるわけもないな、なんて感じる。

そのあとオレンジ諸島では初めてリザードンが俺に心を開いてくれた。

リザードンが倒れた次の日の朝に見たりザードンの後姿はやっぱりカッコ良かった。

それからだったか。

俺はリザードンに頼りすぎたようになったのは。

リザードンは強いしカッコいいし俺の手持ちの中で一番強い。でも、リザードンばかり頼ってても俺は成長しない。

俺の夢に近づくためにはそんなんじゃないと昨日と今日で実感させられた。

水に耐えるリザードンを見ながら、考えた。

これからどうしたらリザードンが幸せになれるのか、を。

リザードンは、俺のもとに居るより、あそこにいた方が絶対強くなる。

それが俺の出した結論。

俺はまだ俺のリザードンの強さを最大限に生かしてやる自信がなかった。

結論が出て、いつの間にか寝ていた俺。瞼の裏が妙に眩しくて、目を開けるともう朝になっていた。

朝陽の下には、俺のリザードンがやっぱりカッコ良く立っている。

やっぱり俺のリザードンはカッコ良いんだ。

誰がどう言おうと俺のリザードンはカッコ良いんだ！

「オマエなんか要らない」

「弱いリザードンなんか、要らない」

リザードンの驚きの声を聞いて俺は声が震えそうになった。強くな
って欲しい。そう思って、でもなんて言ったらいいかわからなくて、
気がついたらこんなことを言っていた。

ゴメンな、リザードン。

お互い強くなったら、また、絶対に会おうな。

さよなら。

さよなら、リザードン…

後ろは振り向かなかった。

俺たちは前を見なくちゃいけないから。

サトシはまた帽子を深くかぶって、顔を見られたくないような仕草。もう涙は流してないみたいだけど目が赤いのね、サトシは男の癖にあたしより泣き虫なんだから。

…まあ、そういうところがほっとけないんだけどね。

「リザードン、ちゃんとしてサトシの思い、気づいてたみたいよ」

「…へっ？」

「サトシの言葉に少し驚いてたみたいだったけど、その後に本当の意味に気づいたみたい」

「ピカ！」

ピカチュウも『うん！』と言うようにサトシの肩の上で笑う。

「さすがはリザードンよね、リザードンとは色々なことがあったし、付き合いも長いし。さすがサトシをよく理解してる」

「……………リザードン、強くなるよね？」

サトシが顔を上げて私に問う。目の赤も消えかかったた。

「それはリザードンの主人のあんたが一番分かってるでしょ、サトシ」

「…そうだな」

「…よし、そろそろ昼食だ!!」

「やったー！タケシ、今日は何？」

すっかり笑顔を取り戻したサトシはいつも通りのサトシに戻った。

「早く飯食って今日中にヒワダタウンにたどり着くぞー！」

「絶対無理」

やっぱりサトシはこつでなきや。

太陽は空のど真ん中。

そんな太陽を見て、あたしはサトシはあれみたいに明るくなきや調子狂うのよね、サトシは明るいのがらいしか取り柄ないものよね、とか思いながら昼食を食べるために近くの石に腰を下ろした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8360p/>

また会う日まで

2011年1月3日21時24分発行